



農業生産法人
日本豊受自然農株式会社
代表取締役 由井寛子

古来より、日本の農業は
信仰心と強く結びついています。
人々は農業を通じ、
八百万の神々を感じていたのです。
今こそ、日本古来の「自然農」と
信仰心を取り戻すときです。



八百万の神々と共に生きる 日本古来の「自然農」

田畑に入る前にも、毎朝スタッフが祝詞をあげる
と聞きました。「自然農」でまさに八百万の神々を感じ
ていらっしゃるのですね。

由井 天照大神のお恵み、太陽の光がないと芽は出
ませんし、生長もできません。そして土にも、水にも、
風にも、神々が宿っています。

私の実家がある愛媛県は台風被害が多く、子供の頃、
畑の農作物が台風でみんなやられてしまった時、母は
しばらく立ち上がれないくらいがっかりしていました。
しかし最後には「神様仏様が決めたことだから、仕方
がない」と言ったのです。この時、「仕方がない」という
言葉は決して悲しい意味ではなく、「先を見据え、また
前向きに行くしかない」という決意だと思いました。
神様には荒ぶる神様、「荒御魂」もいらっしやいます。
水の神も、風の神も、常に穏やかとは限りません。時に
荒ぶり、人々を鍛えてくださいます。私たちは苦を味
わうからこそ、農作物ができた時の喜びもひとしおと
なるのです。

真夏、炎天下で農作業をする際の、そよ風や冷たい
水は甘露です。

「自然農」をしていると、あらゆる自然すべてに感謝を
捧げたくくなります。「自然農」は、人の足を地につけさせ、
「生かされている」ことを教えてくれます。人間は、自然
が与えてくれたものは苦楽すべてを受け取るほかない、自
然と共に生きていくべきであると教えてくれるのです。
そして自然の恵みを受け取れば、土にも、山にも、森に
も、川にも、すべてに対し尊敬と感謝の念が湧き上が
ってきますから、粗末には扱えなくなります。

これからの時代の教育にも「自然農」は良いですね。

由井 みなさん、家や着るもので見栄を張るより、もっ
と食べ物にお金をかけてもらいたいです。食べ物がない
いがしろにされるような今の世の中は自然ではない、
間違っていると思います。食べた物が自分の肉体にな
るのです。人の健康を司っている、最も大事なもので
す。

自然療法と化粧品事業を行うグループを母体として、
農業生産法人「日本豊受自然農」を創業され7年目という
ことですが、社名に神様の名前を付けられたのには、並々
ならぬ決意があったことと思います。

由井 以前、私がイギリスに15年ほど住んでいたときに知りま
したが、イギリスはあんなに痩せた国土でも食料自給率は63
パーセントです。ところが、日本はずか38パーセント、国が
農業を庇護しないためどんどん衰退しています。それを憂い
て、農地を拡大しました。2反弱の畑から始めて、今は100
反になりました。

東日本大震災の発生にも、背中を押されました。被災地に
何度か私たちが作った野菜を持って駆けつけたのですが、その
時いかに食べ物と水が大切であるかを痛感したのです。

また、日本が長年、農業と化学肥料まみれの慣行農業を続け
てきた結果、どれだけ多くの人が健康被害を受けているか、不
健康になっているかを見してきました。考え直すべき時にきて
いる、私たちは無農薬、無化学肥料、自家採種にこだわり、自然
と共に生きていく「自然農」をやりたいと、「日本豊受自然
農」という名を冠し、規模を大きくして活動することにした
のです。

現在、100反の田畑では米、大豆、小麦等の五穀や野菜、
果樹等100種類以上の農作物を栽培しています。それらを
原料にした味噌、醤油、豆腐、レトルト食品や化粧品の製造、
健康や食に関するスクールも行っていきます。やはり豊受大御神
の名前をいただいた以上、人に害をなすようなものをつくる
など、恥ずかしいことはできません。

山や森や川と同様、田畑も神域ですから、種を蒔く時、田ん
ぼに水を入れる時、田植えの時、収穫する時、祝詞をあげてか

ら行うようにしています。虫や微生物にも心があるでしょう
から、喜んでくれるはず。田畑や植物に感謝を込め祈り、お礼
を言うと、なお良いものができるということが経験的に分か
りました。感謝しながら種子を取ると、必ずまた芽を出して応え
てくれるのです。対して、粗末に扱った種子は芽が出ません。
自然のあらゆるもの一つ一つに、神様仏様を見るような信仰
心がないと、素晴らしい野菜や穀類はできないのではないで
しょうか。目に見えない神様仏様の力をいただいて、はじめ
て良いものができるということの日々、学んでいます。

そして、そんな大事なものをつくる農業が栄えない
ようでは、どうしようもありません。農家がいなくな
るとその国は亡ぶと言われています。そしてもう一つ、
信仰心が無くなっても亡国と言われています。これか
らは、その農家、信仰心の二つをしっかりと、固めて
いく必要があると思います。「自然農」ならば、それが
可能です。

私たちが目指すのは五穀豊穡であり、争いの無い、
平和な社会の実現です。そのためには国民一人一人
が自給自足を目指すようつもりで、「自然農」をも
っと広めていきたいと思っています。

フアンタビュアー◎「神社年鑑」編集長・竹森良二



農業生産法人
日本豊受自然農株式会社
静岡県・西南農場
北海道・洞爺農場
連絡先 東京事務所
TEL 03-5797-3371
info@toyoko.com
豊受オーガニクスモール
https://mail.toyoko.com/